（様式１）

自己評価票

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『安心できる居場所を作りよき理解者となりその人らしい暮らしを目指します」という理念を作り上げ、支援している		
2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ひだまり理念をもとに日々考えて入居者に接している	○	安心できる居場所の確保の為にも昔から慣れ親しんだ物や人との関係を継続できるように心掛けたい
3	○家族や地域への理念の浸透 　事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ひだまり新聞の発行を定期的に行い、地域･家族への浸透をとしているが十分とはいえない。	○	定期的に御家族や地域の方に理念の理解も含め伝えていけたらと思う。 年3回発行するひだまり新聞での、理念に基づく情報提供をしていく。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 　管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけた時に挨拶したり、ひだまりにてカフェを開催する時にはチラシを持って案内に伺っている。	○	今後もカフェを開催する時は誘い、ひだまりで出来た野菜などをおっそわけするなどして、もっと交流が深めれれたらと思う。
5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年3回のひだまり新聞は配っているが、地域と交流はできていない。 ふたば園、長浜神社の祭りには参加している。	○	地域の自治会や老人会に参加するのは難しいことだが、祭り等の行事があるのなら積極的に参加していけたらと思う。また、地域の清掃活動に参加できたらと思う。

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された事はミーティングに持ち込み全職員共有できるようにしている。少しずつではあるが改善方向に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひだまりの現状（入居人数や介護度など）の報告や、核ユニットのリーダーがユニットの状況を報告している。報告後は、来られた方の意見を忠実に聴き次へ活かせれるように取り組んでいる。	○	もっと、沢山の意見を聴きたいので話しやすい雰囲気作りも大切である。 職員の方からも意見をもっと言うようにしていけば、おのずと話しやすい雰囲気になると思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	他ユニットに成年後見、権利擁護事業を利用している人が入居したが、内容理解に結びついていない	○	今後、制度理解の為の学習会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士でも、虐待はないか注意してみている。 虐待についての勉強会は開催されていても勤務等なかなか参加できていない。研修に行った職員の研修報告書にて確認はしている。	○	ひだまり内での勉強会が必要（全職員対象）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類に目を通して頂き、説明の上同意を得ている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は親身になって聴き、すぐに解決出来るようにユニット職員、管理者と話し合い問題解決に取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	よく来られる御家族には、その都度状況報告、出納帳の確認をして頂く。 職員の異動の報告もこられた時報告か、家族会の時に報告している。 今年度から２ヶ月毎、金銭管理報告と生活情報を手紙で報告している。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員も設置しており、文章の配布、説明も行っている。 各ユニットの玄関に意見箱も設置している。	○	家族にとっては苦情は沢山あるが、なかなか言えない状況である。少しでも意見が言えるようにこちらから話しやすい雰囲気を作らなくてはいけない。 アンケートなど行ってみてもよいのかも。
16	○運営に関する職員意見の反映 　運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見を聴き、それを反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員人数が少なく厳しい日もあるが、大体バランス良く勤務を調整している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は職員が２人異動があったが、思ったより混乱はなかった。 今まで他ユニットにいたが夜勤でも関わっており顔なじみであったのが良かった。		
５. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、園内研修と幅広い研修を提供してもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そのような機会はなかったが、外部の研修に行かせてもらったときに他施設職員の方と交流できるので、ネットワーク作りができる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務間隔や休日は配慮して頂いている。	○	個々の面談など、話を聴いて頂ける場もほしい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々に時間をとって1対1で話をする機会を作ろうとしているがなかなか実現できていない。 相談されたら極力努力はするが上手くいかないことが多い。	○	自室に伺い、2人で話をする機会をつくる。または、一緒にどこかに出掛けると心がゆるされ話やすい雰囲気になるかもしれない。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の調査の時や、入居されてからも不安な事等話が出来るきかいを極力作っている。	○	もっと積極的に御家族とコミュニケーションをとっていき、御家族の理解、援助をしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一つの家族になった雰囲気で過ごしている。教わることも多く、支えあう関係になりつつある。 入居者が主役になれるように支援している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 　職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症の片にとって御家族の影響は強い。その為、御家族とのコミュニケーションは大切にしている。 定期的に、状況報告をおこなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が崩れないように、入居者さんから電話していただいたり、逆に御家族から電話していただいたりもしている。また、なかなか面会に来れない御家族には状況を報告し、少しでも来ていただけるようにこちらから電話している。	○	外泊はなかなか難しいので、職員も同行して自宅訪問などしていけたらと思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 　本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆どの方が馴染みの関係は築けていない。馴染みの場所には本人から話を聴いて出掛けるようにはしている。 以前、利用されていた理髪店など利用するように努めている。	○	各地域の行事などに参加して馴染みの人との交流を図らせてあげたい。 また、もっと馴染みの場所に出掛けれたらと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 　利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然と個々に独立した生活スタイルをとっている。 時々、ちょっとした事で人間関係上のトラブルにはってんすることもあるが、１人１人が自分の役割をもっておられ、共に支えあっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み 　サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	そのようなケースがない		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の希望などは聴いているが、実現にはなかなか結び付けれていない。 出来ている人と、出来ていない人がある。	○	希望を聴いたらすぐに実現できるようにユニットない、全職員にも協力を得て早期解決につなげたい。 毎月のミーティングに持ちかけるようにもする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント不足で、未だに把握にかけている所がある。 日々の会話不足も感じられる。	○	再度アセスメントをし直し、その方にとってより良い生活を提供する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌や個人カルテに目を通し、継続して入居者の状態を把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	３ヵ月ごとのケアプランの見直し（評価、アセスメント）を行い、カンファレンスにて意見を話し合い、ケアプランを作成。御家族に説明しその後のケアにつなげている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に１回見直しと共に、カンファレンスをおこなっている。 現状が変わった時もすぐに話し合いをし新たなケアプランを作成している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の日誌、個人カルテ、気付きシートなどを使用し１日の流れと、変化があった事を詳しく記録している。 記録は全職員が目を通しており共有している。そこから、ケアプランにもつなげている。	○	見やすく、簡潔に纏め上げれる記録を作成し使用し始めている。
３. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要求をされた時は出来る限り答えているが、多機能性を活かした柔軟な支援を提供できているとはいえない。		
４. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に協力を得て、神楽や踊りなどを行って頂いている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在そのような意向、必要性のある方がおられない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医の方、こちらが提供したかかりつけ医の方とおられる。入居当時に本人・御家族の意向の元に適切な医療を受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者主治医の大半は内科医である。精神科医が往診しているケースは１名のみだが、診断･治療を受けられる体制にしてある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置されたので、日々気になることは常に連絡して助言を得ている。 また、医師の往診時には看護師も立会い共に共有出来るようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報提供書、日々の暮らしぶりなど記載し入院先に渡している。退院時も病院から渡してもらっている。また、気になることは電話連絡にて情報を交換している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	こちらで看る事が難しくなってきそうであれば御家族に相談し今後どうしていくのか話し合いを行うようにしている。	○	本人･家族･施設との具体的な話し合い。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の方ならば、常に医師と連携をとり苦痛のないよりよい暮らしを提供できるように取り組んでいる。	○	現在、重度や終末期の入居者はおられないし、今後もどこまでひだまりで看ていくのか検討や準備が必要と感じる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の所でも継続的なケアが出来るように情報提供書を渡している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（１）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時々馴れ馴れしい言葉使いをしてしまう事がある。 外に名前がもれないように個人情報は守られている。	○	入居者と距離が非常に近くなりすぎている事もあり、馴れ馴れしくなっている。職員の意識の問題なので職員同士でも指摘しあい個人を尊重する。 個人カルテは、鍵つきの棚などに収納したほうがいいのかもしれない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を気軽に言えるような言葉かけ、会話はおこなっている。 自分で決めれるように職員は一歩ひいてケアしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員の都合に合わせた介護をしている。本人が希望を言われても後回しにしてしもうこともある。「ちょっと待ってください」という言葉が多いように感じられる。	○	入居者を中心に考えることの再確認が必要。ゆとりをもって介護できるように優先順位も考える。
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝身だしなみの所はチェックし必要な場合はこちらから「この服がいいですよ」などと支援している。また、本人からの希望時や定期的に散発に出掛けるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に２回入居者の好みの物、食べたい物を聞き一緒に作るようにしている。入居差の状態をみながら片付けなどもしている。 一緒におやつ作りも時々している。	○	今後、回数を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が昔から飲み続けておられたお酒を現在でも提供している。また、朝は牛乳やコーヒーなど希望に添って提供している。 日々のおやつはこちらで決めてしまう事が多い。	○	日々のおやつの極力入居者の意見を取り入れていきたい。または、選択して頂くなどしていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が１人１人の排泄パターンを把握しているので定期的にトイレ誘導など出来ている。 なかには、日中のみ紙パンツから布パンツに対応になった方もおられる。	○	時々、排泄失敗の場面もあるので、本人の尿意・便意を損ねない様にトイレ誘導していきたい。しっかり排泄チェックを行うようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞いてから入浴される方もおられるが本人の体力面も考えて２日に１回のペースの入浴にしている。本人の意向を尊重するようにしている。	○	できるだけ本人の希望に添った入浴をして頂きたいので体調面に気をつけ希望通りの入浴につなげていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不安の時は話を聴いたり、ナイトミールを提供したりしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔されていた馴染みのある事を中心に提供している。 女性の方であると家事は体で覚えておられるので自分の役割としてされている方もおられる。	○	

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理されている方もおられるが、殆どはこちら側で管理し必要な時に提供するようにしている。	○	金銭管理をする機会を増やす。 買い物に行った時に本人に会計して頂くなど。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には出掛けるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足やドライブなど計画し実行している。 また、個人個人で行きたいけどなかなかいけない所にはあらかじめ計画を立てて出掛けるようにしている。	○	もっと御家族にも相談・協力を得て、外出する機会を多くつくれるように計画をする。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族に自ら電話される方もおられる。 以前は手紙を書かれていた方もおられたが最近は書かれなくなり支援もしていない。	○	なかなか定期的な手紙などは難しいので、暑中見舞いや年賀状などを使用してみたらいいかもしれない。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問出来るようにしている。 お茶だしなどし、ゆっくりとして頂いている。	○	
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	○	再研修の提供

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 ２名ほど、本人の希望により夜間のみ自室に鍵をかけられる。合鍵はこちらで預かっており、定期的な巡回も行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共用スペースに折られる方はもちろんだが、日中自室にて過ごされる方もおられるので、３０分～１時間おきに様子伺いにいっている。 夜間は１時間おきに巡回している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は台所ではなく入居者の分からない戸棚にしまっている。 ハイターなど消毒や洗剤などは入居者の手の届く所に保管してある。	○	消毒など入居者の手の届かない所に保管する必要がある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	学習会や訓練などを行っている。	○	定期的な学習会を開催。。 全職員の共有化、情報交換の徹底。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に１回行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練をおこなっている。 避難訓練時は地域の方にも参加して頂き訓練している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	危険と感じた事は今後の対応策も含め御家族に連絡している。大体がこちら側の意見を説明し同意して頂いている事が多い。	○	御家族と共に対応策を考えるようにしていきたい。その為にも話し合える場を設ける事が必要となってくる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 　一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「あれ？」と思うことは他職員にも報告し早期発見・対応をしている。記録にもしっかり残す様にしているので情報の共有できている。		
74	○服薬支援 　職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイル、カルテにも説明書は載せているので理解はできている。	○	疾病、薬についての学習会
75	○便秘の予防と対応 　職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックをしてをり、便秘の時は牛乳を勧めたり運動をしたりと取り組んでいる。	○	運動の機会の提供（継続化）
76	○口腔内の清潔保持 　口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員は出来ていない 就寝前には歯磨きができているが、毎食後はできていない。	○	毎食後、本人の状態にもよるが出来るだけ口腔して頂くように誘導をする。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方にはこまめに勧めている。 出来るだけバランスよく食べれるように、最初は軽めに盛り付けをし、食べ切れたら追加するようにしている。 記録に食事両を記入するので１日を通してどのくらい必要かなど明確である。	○	飲食しやすいものを個々に合わせ提供していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	対応の取り決め（マニュアル）がある。 現在もハイター消毒など継続して実行している。	○	予防の継続化 研修会の開催
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒に関する予防策は管理栄養士から説明をうけたり、市から送られてくる食中毒警報など頭にいれている。	○	早期マニュアルの作成。 全職員の徹底した対応が必要。 食材チェックはユニット職員が責任を持ってチェックすること。
２. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも入れるようにしておりきれいにを心掛けている。 また、花などを飾って来られた時に気持ちよく感じられる空間にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間なのでゆっくりと落ち着いた雰囲気はあまり作りだせていない。季節感あふれる装飾もあまりしていない。	○	装飾を明るめのものにしたり、落ち着ける空間を作るために馴染みの物を置いている。 また、季節が分かるような装飾をするように心掛ける。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	１人になられる時は皆さん自室にもどられる。利用者同士で話が出来るスペースは確保してありゆっくり過ごされる。	○	空いているスペースがあるので、一人になれる空間つくり

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、今まで生活してきた通りの空間を作り上げて生活しておられる方もおられるが、未だに馴染みの物がなく殺風景なお部屋で過ごされている方もおられる。	○	御家族に相談し、少しずつでもいいので馴染みのあるものを持ってきて頂けるようにアプローチする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用スペースには湿度･温度計を設置しており、日々チェックしている。居室に関してはこまめに訪室しその都度温度調節や換気をおこなっている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かした建物とは言えない。	○	廊下等の手すりの検討
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	１人１人の能力を把握し、自分でできる所まではやって頂く様に支援している。	○	全職員の統一にはなっていない時もあるのでしっかりとしたマニュアルやニーティングなどで共有できるような対策も必要。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先などに花を植えている。	○	ベランダに椅子やテーブルをおいて外で話が出来る空間があっても良いのかもしれない。

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ○　②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○　③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
項目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない		
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない		
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ○ ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない		
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ○ ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・入居者さんの方から「ここに行きたい、何かがしたい」と要望があれば、すぐに実行するようにしている。また、職員の方から問いかけるようにもしている。
・畑を借りて野菜作りをしている。また、畑以外で居室の庭や空いているスペースにも野菜を作っている。
・年３回ひだまり新聞を発行しているが、写真を多めにしいつみても賑やかな親しみのある新聞を製作している。
・１ユニット６人の３ユニット体制でより細かな支援をしている。
・年３回ひだまりカフェを開催しており、近所の方や、御家族を呼んで賑やかに過ごしている。カフェの食べ物は職員と入居者とで一緒に作っている。